

1月24日（水）朝礼のお話し

ポケットに手を入れたまま歩くと．．．

寒い日が続いていますね。暦の上ではもうすぐ春になるわけですが、東京の寒さはこれからしばらくが本番で、雪が降るのも二月の終わりから三月にかけてが多いようですね。

では今日のお話です。今日は「ポケットハンド」のお話しです。ポケットハンド、何のことかわかりますね？そう、あなたが朝学校に来る時にポケットに手をいれたまま歩いている、あの姿のことです。

ポケットに手をいれたまま歩くと危ないと言うことは誰でも聞いたことがあると思います。校長先生も校門で毎朝のように声を掛けています。でも、まだまだポケットに手をいれたままの人が多くいます。

ポケットに手をいれたまま危ないのは何かにつまずいたりして転ぶ時ですね。ふつう、転ぶ時には手で体を支えてケガをするのを防ぎます。でもこの手が出ないとどうなるのかと言うと、あなたの体の前の部分を直接地面や床にぶつけることになります。体の前の部分には鼻や口、胸やお腹と言った人間にとって大切な部分がたくさんあります。この中でも一番事故が多いのが口や鼻の周りです。最近の事故例を調べてみると、七歳の女の子がポケットに手をいれたまま転んで、顎から地面にぶつかって顎の下がパッカリの開いてしまうような傷ができ、何針も縫う大けがになったと言うものや、36歳の女の人が地面のちょっとした段差で転び前歯を2本折り、下顎や唇を縫うような大けがになった例などたくさんありました。また、もっと怖い例ではやはりポケットに手を入れたまま歩いていると転び、ちょうど下にあった石にお腹を強く打ち、内臓破裂で死んでしまったと言うものもありました。いずれにしても顔やお腹を打つと大けがになり、後々までつらい思いをすることになります。

ポケットに手を入れている人の中には「転びそうになったら手を出すから大丈夫」なんて思っている人もいるかもしれませんが、でも、そう簡単にはいきません。人間が躓いてから実際に転ぶまで1秒しかかかりません。ポケットに手をいれていなければこの1秒の間に手が出て体を支えることができます。でもポケットに手を入れていた場合には手をポケットから出して体を支えるために動かすのに2秒以上かかると言うことが分かっています。たった1秒の違いですが、この遅れが大きな事故に繋がってしまうのです。

自分が手を出さずに転んで顔を強く打ち、ケガをする場面を想像してみてください。それがポケットに手を入れていたことが原因だとしたら、あなたはケガをした後にとっても後悔することでしょう。「あの時、ポケットに手を入れてさえいなければこんなケガはしなくて済んだのに」そう思ってもまさに後の祭りです。

今日はポケットに手を入れてあることの怖さについてお話しをしました。手が冷たくてつらい人はどうすればいいか簡単にわかりますね。そう、手袋をすれば良いんです。簡単なことです。皆さんも春までつまらない事故に遭わないように気をつけてくださいね。それでは今日のお話を終わります。今日も一生懸命に聴いてくれてありがとう